

時事新報

海軍の改革と大臣の更迭

政府に於ては伊藤總理が議會に明白したる約束の旨に従ひ取り敢へず海軍の改革に取掛らんとて内閣中の由なりしが昨日に至りて果して海軍大臣の更迭を見たれば是れを改革の端緒を開きたるものなる可し然らば是れより實行せらる可き改革は如何なるものなるやと想像するに抑も洋式の新式海軍に等しく日本の新事業にして當局者の經驗も自から乏しきが故に亦自から失策も少なからず其規模の大なる割合に事の難らざる難もあらしならん属は方針計畫を變更したるが爲めに所謂徒費徒勞の實ありしならん既往に溯て一々其れを吟味せば随分算算多かりしものとならん雖も何れも創業の時代に免れざるの失策にして此種の事例は他の事業に於ても多く見る所なれば獨り海軍のみを咎む可きに非ず或は現に參謀部の分合、鎮守府の配置等に就ての異論もあるが如くなればも今の海軍の仕組は必ずしも當局者一個の私見を以て定めたるに非ず歐米先進國の規模に倣ふて之を折衷し種々の改良を経て今日の體裁を成したるものなれば仕組の大體に於ては特に不都合の點もなかる可し彼の參謀部を獨立せしめ又は鎮守府の數を減ずるの説の如きは畢竟仕組の可否論にして専門家の問題としては可なれども改革の談には毫も縁なきものと云はざるを得ず或は又信用上の問題即ち會計の始末に就ても何か世間に喧しき評判あるが如しと雖も既往數年前の事はイザ知らず既に會計法も行はれて一厘一毛の徴と雖も官吏の人心を許さざる窮屈至極の今日に當り海軍に限りて特に不始末ある可しと我が輩の信するも能はざる所なり左れば改革の必要は仕組の上にも非ず又會社の事にも非ずして部内の情實即ち人物の進退に在るものとならん果して然らば其情實に單に海軍のみならず政府一般の通弊なればも海軍に於ては殊に其始末に窮するもの多しと云ふ是即ち世間の耳目を引く所以なる可し聞く所に據れば日本の海軍にて正式の教育を受け相當の學力を備へ且實地の經驗に富めるものは少佐大尉以下に多くして夫より以上の將官に至りては大體職則に學びたる者か又は維新の戰功等に於て今の地位に在る者多く上位に在るもの必ずしも技術あるに非ずして却て下位に居るものは技術あるも之を伸ばすを得ず即ち情實の病根なればも今その病根を除かんとして老朽無學の將官を悉く罷免して之に代ふるに有爲の後進生を以てするが如きは果して事實に行はる可きや否や若しも非常の英斷を以て之を行はんか甚だ妙にして我輩に於ても素より望む所なればも嶄新の大改革は殆んど海軍の全體を破壊し去り真は嶄新に創立すると同様に於て政府全體の上にも影響する所少なからざる可し故に永年月を期して漸次に其實を舉るとなれば我輩も第五議會に至るまで僅か數月の間に此種の大改革を行はんとするは我輩の覺束なく思ふ所なり然らば則ち今回の改革は局議の廢合もしくは一部分の更迭に止めて更に他日を期せんか部内の情實は依然の如くにして其不平は失張り止まざるものとならん部内の不平は即ち世間の評判を招くの本にして折角の改革も一般の希望を満足せしむるの結果は難かる可し

と想像する所なればも思ふに新任の海軍大臣は薩藩出身の元老にして其名望は同藩人の常に心服する所なり此人にして薩人の激進も云ふ可き海軍の局に當りて改革を行ふとあれば部内の折衝も自から圓滑にして兎に角に當局者に於て適當と認むるだけの改革は必ず行はるものと云ふ可し然りと雖も新當局者たる西郷伯は如何なる主義の人なりやと云ふに彼の政黨の所論に正反對にして飽くまでも政府の威嚴を重んずるは世間の認むる所にして即ち昨年來國民協會の首領と爲り大に運動したるも平生の主義を行はんとするが爲めに外ならざれば今の人にして現内閣に入るには何か其間に約束の條件なきを得ず其約束は素より知る可らずと雖も平生の主義より察すれば當局者が適宜と認むる所の改革は適宜に行ふ可しと雖も苟も政府の威嚴に關するものは一步も假さずして飽くまでも其所見を貫く可しとの意味なりと推知して大差なかる可きか果して然らば西郷入閣の一事は政府の精神を一變したるものにして其改革も民黨に取りては希望を満足せざるのみならず失望の結果を見るに至らん但し爰に注目す可きは伊藤總理の舉動にして第四議會の初には突然地價修正案を提出して恰も民黨の先陣を勧めたるのみならず其終りに種々の魂丹掛引の末、辭を卑んして所謂黨約的の改革を議會に誓言したる其素懷は左ながら民黨に媚を献じて只管其欺を失はんとすを怖るもの如くなりしが右は一般の誤想にして一時の政略に過ぎず即ち其議會に對したるの態度は兎に角に目下の難處を切抜んとする處々實々の略にして今日に至りて始めて其本相を顯はしたるものには非ざるか兎に角に西郷伯の入閣にして果して或る條件の約束に出でたる以上は政府の威嚴を重んずるの一事は疑ふ可らずして改革の實行も到底民黨を満足せしむるの結果なきのみか第五議會の有様も之を想像するに難からず即ち衝突に衝突を重ねて前會の始末に更に念の入りたるものと見て實際に間違なき可し我輩の想像果して當るや當らざるやは來る十一月を待たず取り敢へず海軍改革の模範如何を見て知る可きなり

雑報

○積財の苦辛(一昨日の續き) グールド氏は我が人聞世界に最も悪名を蒙られたる人なりと云ふにぞそは又何故と余が問ひに答へし氏の言葉は能く其人となりを顯はしたり即ち其言に云く大凡そ生きて生ける者その男女を問はず假令其身を助けんが爲めに余に善き様に仕向くる者はなし彼等既に我を助けず我を亦彼等の善き様に仕向けんやと其語勢たるや實に無望の人の口調なりしかば余は終に此問ひに答ふるを爲さず御身の決心は常に爰に在りしやと問ひ返せばグールド氏は如何にも其通り、ツツツと變じたるもはなし余が生れば實に低く爾來常に社會の階梯を上升するのみならず其一段を登る毎に天下各人の手は唯余に反對するが爲めに用ひられたるなりと答へたり

成功の心病

余は重ねて問ひけるや御身はさば云ひ給へ左の人を厭ふの心は事人情的の事實に外れる故には非ずやとグールド氏答へて云く否よ余は生來未だ嘗て世間の人に善く仕向けられたるを心に記憶せず余は又ふれに憐れかす如何にとなれば余は立身の行跡に於て過ふ

人毎に之を拂ひ除く必要を覺えたればなりをを心なき術と云ふ人もわらんか余は又何の困難あつて己れに反對する者を扶け起さる可らざりしや彼も道理なきと云へば此も道理なき余は自ら己れの財産を成したり之を成すに就ては數千の人を亡したるのみ彼等が零落を氣の毒に思はんが爲めに己れの零落を氣の毒に思はざる可らず然れども余は終に彼等が零落を氣の毒に思ふとは云ふ能はず其次第は余が打倒したる所の者は余よりも其だましき愚者なりとの最も簡潔なる見易き道理あるのみにして余は生來、馬鹿が大嫌なればなりテ馬鹿の余を嫌ふは云ふまでもなし愚者が世間に多數を成すは余の爲めに幸なれば愚者の爲めに不幸なりとは思ふも余が何れも余は何れも己れを嫌ふ奴等と好まざる可らざるや余ども生來人に嫌はるゝを好むには非ず左りながら早急止むを得ざるなり若しも余が人に好まれるれば余は己れの馬鹿たることを知り馬鹿に化したりと知ては一時も居堪り得ず余は元來錢儲けて人に嫌はるゝやう生來きたるなり左れば余が人に嫌はるゝを止む能はざるは錢を儲くるを止め能はざるが如し天下萬人何れも皆、立身成業の機会に遇ひたるは余に異なるもどく彼等が生涯の間起りたる存亡の秋は即ち余が生涯に起りたるものにして天下各人の眼は注いで同一の企圖に在りしなり彼等は此事の起る可しと思ひて己れの説に隨ひ運動を定め余は又此に非ずして彼の事の起る可しと思ひて己れの説に隨ひて勤きたるのみ若しも余が己れの確信に背きて勤くどもあらんにには是れを即ち狂気の沙汰なり況んや天下をして其確信に背きて勤かしめんとするに於てをや狂の狂なるものと云ふ可し天下の人民に善きやう仕向けんとするは爲し能はず彼等が之を爲さしめさればなり余は彼等に頼かんぞせず彼等は余に頼くを好まず左れば彼等の間に背合せにして頼まなければゆかりもなし好さも嫌ひもあらず善き善きなければゆかりもなし好さる成功を惜むが故に余は彼等の失敗を惜むのみ兎に角にも彼等何れも道理ありと云ふ可し若しも萬一、余が失敗して貴之人とならんか余は不條理にも彼等を惜む可し左れば彼等は早晩、余を惜む可し彼等は或は余を助けんどもす可し左ればも余は終に彼等の助言を用ふ可しと云ふ覺えす斯れば彼等の間の嫌惡の比例は依然として善に異なる可し見てもせざる可し及ばざる人達が心の中に殺意を包みて余を求めつつ徘徊し居たり彼等若し余を探り當つれば或は恰も之を斷行しなば彼等の身の爲めになるかの如く余を殺すが如き思ふ可し可し兎に角に余が彼等を嫌ふの自然なるは彼等が余を嫌ふの自然なるに異ならず余が身防衛の爲めに彼を拂ひて居ひたる數人の男を隨へて往來するは爰に幾十年なり若しも各人が余を嫌ふ程に心の底より各人を嫌はざるに於ては余は誠に不愉快なる可し然かも余は尙ほ満天下中、最も憐れ可き不幸の人たるを死れず種々とも抑も如何なる處ぞやと (つと)

大阪商

以下二十六名が...

高知縣

氏より高知縣...

金氏觀

たるが同地...

市村屋

たつて済...

福嶋中佐の消息

ラゴウ...

安廣秘書官の轉任

密院議長...

安廣秘書官の轉任

密院議長...

福嶋中佐の消息

ラゴウ...

安廣秘書官の轉任

密院議長...

福嶋中佐の消息

ラゴウ...

安廣秘書官の轉任

密院議長...

福嶋中佐の消息

ラゴウ...

安廣秘書官の轉任

密院議長...

福嶋中佐の消息

ラゴウ...

安廣秘書官の轉任

密院議長...

福嶋中佐の消息

ラゴウ...

安廣秘書官の轉任

密院議長...